

問い合わせ先

第七管区海上保安本部海洋情報部

海洋調査課長 福山

電話 093-321-2931 (内線) 2530



第七管区海上保安本部

平成26年4月24日

測量船の調査機器が新しくなりました

～ マルチビーム測深機2台での運用 ～

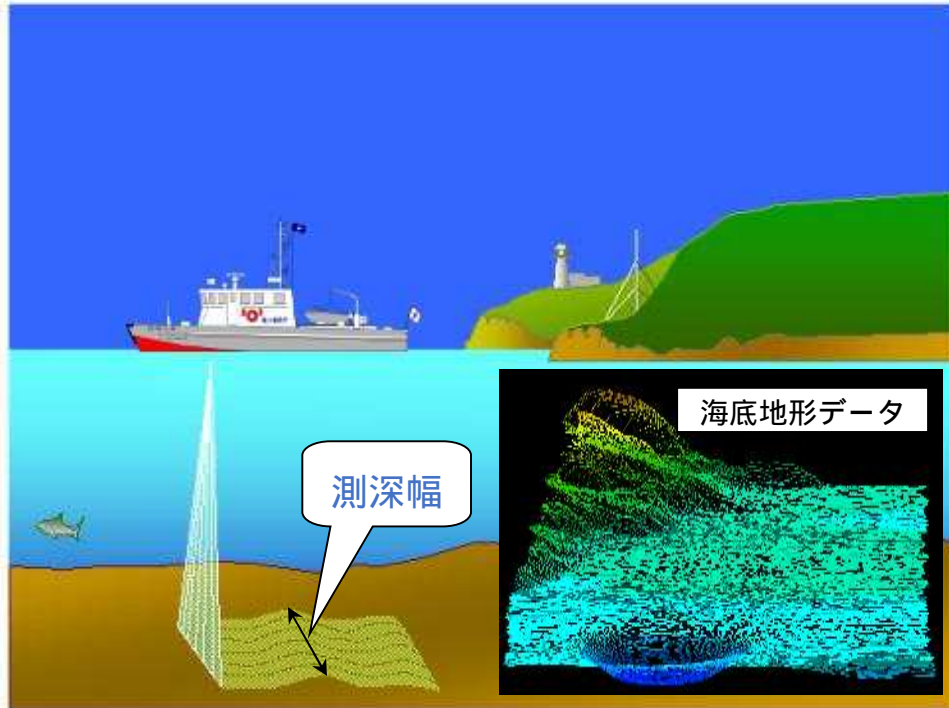
第七管海上保安本部所属の測量船「はやしお」に搭載している、マルチビーム測深機が新しくなりました。これまでは1台の送受信器(シングルヘッド型)で運用していましたが、今回新たに2台の測深機を同時に使用する「デュアルヘッド型」を採用することとなりました。この方式は当庁で初となるもので、当管区を含めて全国の同型船7隻に本方式が搭載されたもので、「はやしお」においては本年5月から運用を開始する予定です。

第七管区海上保安本部では、船舶が安全に航行するうえで、必要となる海図を維持管理しています。海図を最新の状態に保つために、管内海域において水路測量を実施し、得られたデータから海図の基となる情報を取得しています。

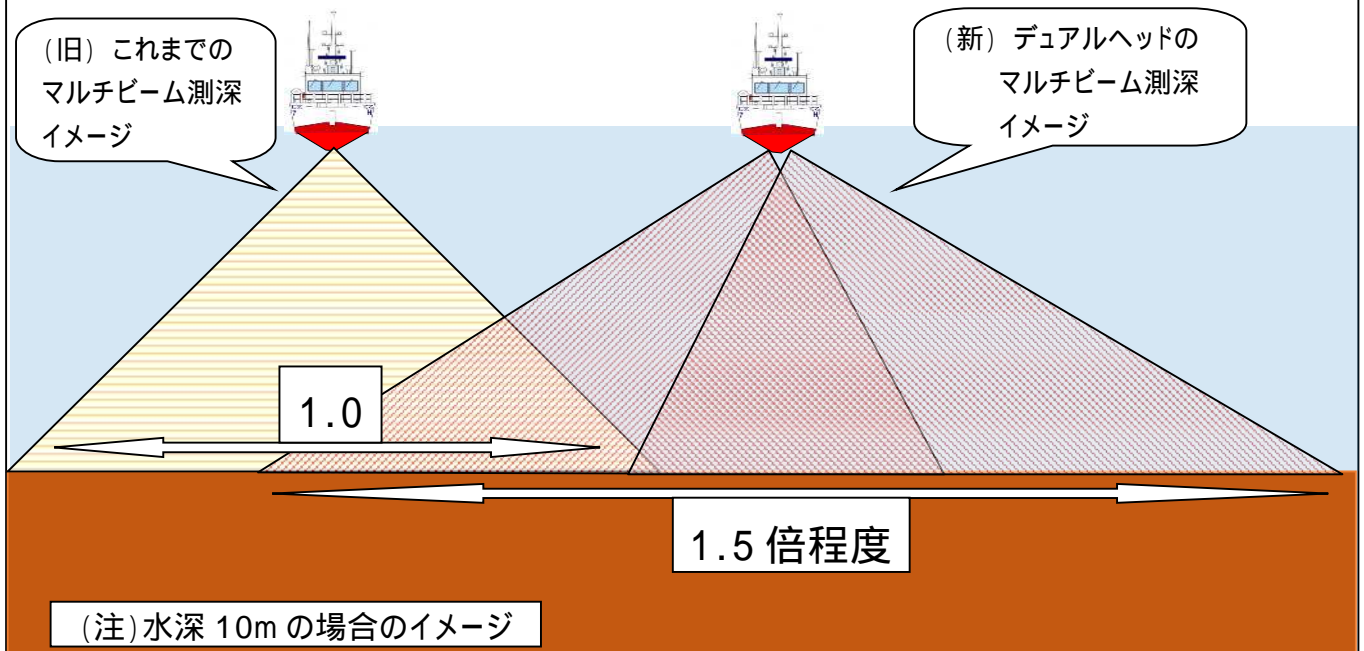
海図の大切な要素の一つである水深は、測深機を用いて調査しています。測量船「はやしお」では、これまではシングルヘッド型の測深機で調査していましたが、今回の新しい機器では、同一の測深機を船の左舷と右舷に一台ずつ搭載して、合計2台の測深機いわゆる「デュアルヘッド型」で、さらに広い範囲を測深することができるようになりました。また、音波のビームが指向性の鋭いものとなり、詳細な海底地形を把握することができるようになりました。

この測深機を使用することにより、調査時間が短縮され、また、詳細な海底地形データが取得されることになり、管内における調査の能力が向上します。調査時間の短縮により、これまで以上に広い範囲の測量を実施できることになり、また、詳細な海底地形データは津波防災ハザードマップ等の作成に役立つものとなります。

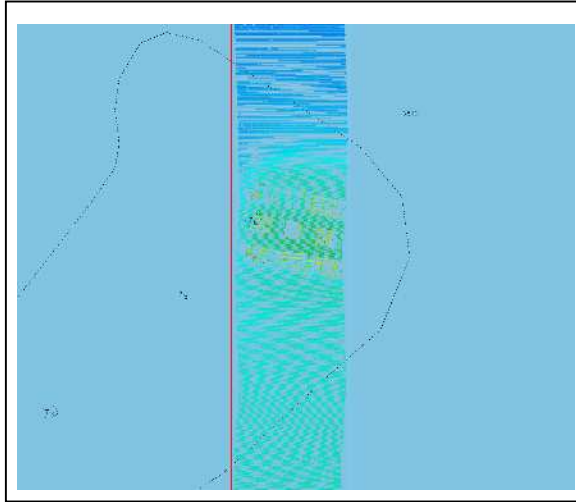
マルチビーム測深のイメージ



測深機 1 台 (左側 : シングルヘッド) と 2 台 (右側 : デュアルヘッド) の測深幅イメージ

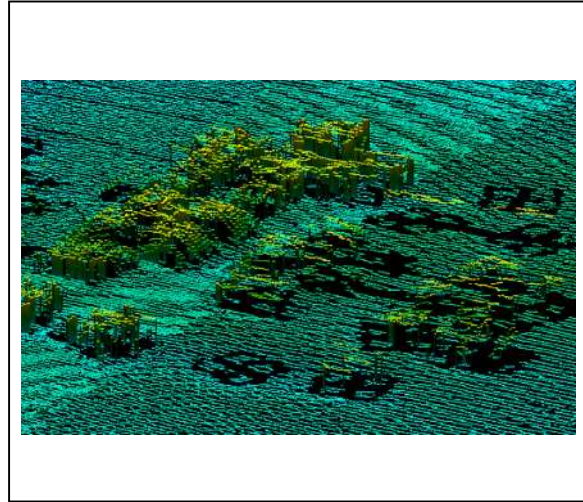


シングルヘッド測深機によるデータ



1回の測深で得られるデータ

(測深幅)

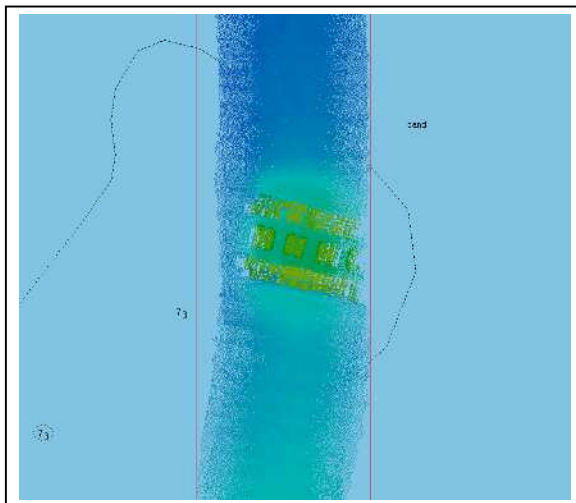


海底の人工構造物

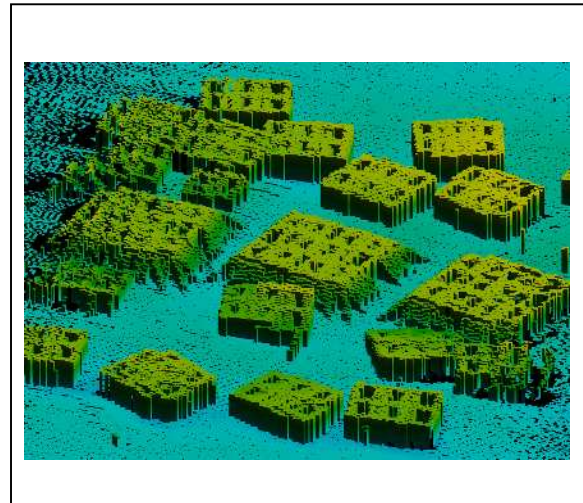
(漁礁)



測深の幅が広がります



より詳細なデータを取得できます



デュアルヘッド測深機によるデータ